



すわっ子だより

出会い

校長 川添 倫義

ここ数年、年末年始にはいつも思うことがあります。

3年前、年末年始に体調を崩し医者診察を受けたところ、約3週間の入院生活を余儀なくされました。命の大切さと向き合いながら検査や治療をしている入院生活の間、主治医や看護師等病院職員の方々はもとより、児童、保護者、学校関係者の方々、教職員、知人、家族や親戚の支えに一方ならぬ感謝の気持ちを感じました。

また、1年前の学校だよりも書きましたが、能登半島地震や阪神・淡路大地震も1月に起きています。

孔子の「われ十有五にして学を志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳順がう。七十にして心の欲する所に従って矩を踰えず。」という言葉があります。孔子はこの「論語」の一節で、人生の末期を迎え、自分の人生を自ら「実りあるものだった」と評価しています。スティーブ・ジョブズ氏は、「他人からの期待や自尊心、恥や失敗に対する恐れなどは死を前にしては全て無意味なので、真に重要なことだけが残る。いつかは死ぬということを知っておくことは、何か失うことがあるような錯覚を避けるための最善の方法である。」という言葉を残しています。私たちも後悔のない人生を送るために、孔子やスティーブ・ジョブズ氏の言葉を参考にしたいものです。

「出会いなんていいかげんなものだ。砂漠で別れた人に出会うくらい左右されるくせに、ときには、ゲームみたいに人生を変えてしまう。」これは、ある物語の登場人物のセリフです。しかしながら、まさにその通りだと感じます。だからこそ、「一期一会」。出会いは人生において大切な転機であることを忘れず、出会いを大切にして、誠意を尽くして物事に専念したいものです。